

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

箱崎愛宕神社獅子講中
おおぜわにん
大世話人

菅野栄次 さん（伊達地域）

大世話人として箱崎の獅子舞の活動に携わっている菅野栄次さん。主にまとめ役として祭りや練習などの活動と次代につなぐ伝承活動を務めている菅野さんに、箱崎の獅子舞の活動を伺った。

箱崎の獅子舞

箱崎の獅子舞は、460年以上の歴史を誇る獅子舞で、私の幼少期の頃は、一子相伝というか、長男だけが教えてもらいつぐことのできた舞でした。私は次男だったので踊りたいと思うながら、一般客としていつも見ていました（笑）。

見た目の特徴は、獅子頭が大きいこと、背中まで毛で覆われていること、服装が派手でないことなどがあります。また、輪舞^{わのまい}という舞は、県内でもここだけとされています。

大世話人の活動

現在の獅子講中は30人ほどで、大世話人が3人、世話人が7人でまとめています。大事な



Profile ●菅野栄次

箱崎地区に次男として生まれ、伊達地区で自営業を営んでいる。幼少期の頃は長男だけが獅子舞を教えてもらう時代だったため、参加することはなかった。大人になってから仕事で伺った先が大世話人で、声をかけてもらい40代で初めて踊る。その後は笛の担当し、30年ほど携わっている。現在は大世話人として祭りのまとめ役や、次代につなぐ伝承活動を務めている。

練習や伝承活動は、昭和50年代に「箱崎獅子舞保存会」を立ち上げ、その後、「笛伝承クラブ」をつくり、大世話人が会長となり伝承に努めています。練習は踊りが毎月第2、4水曜日、笛が第1、3水曜日を基本に年間を通して行っています。

地域の輪が広がる活動

獅子舞は10種類以上の舞があるので、踊りも笛も覚えるのが大変です。私は笛を覚えるのに10年ほどかかりました。「掛合^{かけあい}」という舞は1時間以上もかかるし、地区をめぐる村周りでは朝から夜までかかります。最後のお寺に到着した時はほっとしますが、そこでも踊りが待っているのでヘトヘト（笑）。でも、いった先々で大歓迎をされるのがと



箱崎の獅子舞で笛を吹く菅野栄次さん

てもうれしいです。私が40代で初めて踊った時に一緒に踊った小学生の子どもたちが、今は大人になって中心としてがんばっています。獅子舞を通してつながり、子どもから私のような年代まで顔を覚えて話ができることは、今の時代では良い機会となっていると思います。

どんなことでも後継者不足と言われるように私たちの獅子舞も同じ課題を持っています。そのためにも早くコロナが終息し、にぎやかに祭りを開きたいと思います。夢はいつか伝承館を造ること。貴重な資料の展示や保管をし、練習場所を確保して、460年の歴史を絶やすことなく次代につなぎたいです。